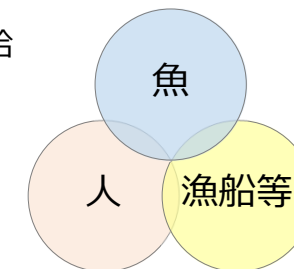
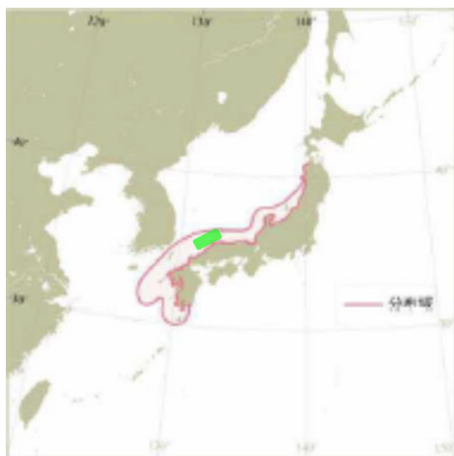


中型まき網漁業の現場から思う資源管理 ①

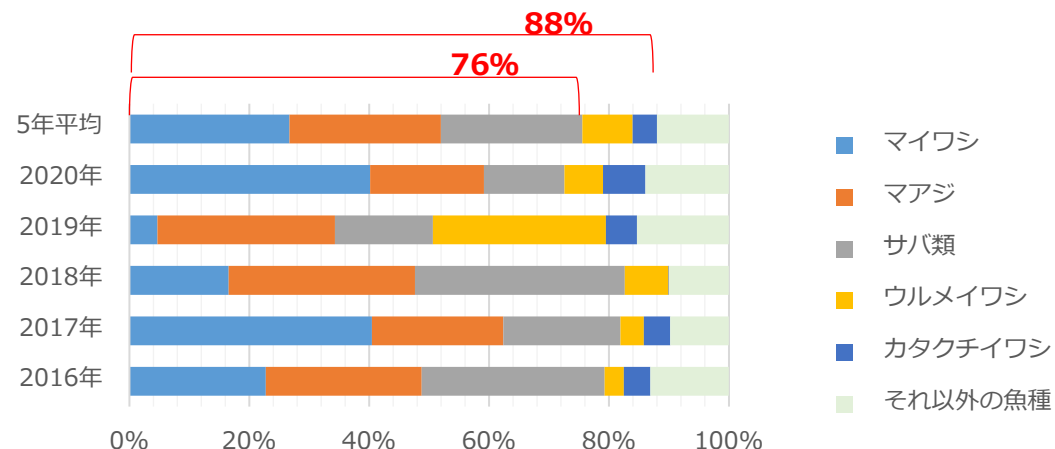
- 中型まき網が漁獲する浮魚は、生鮮食用向け・水産加工向け・養殖用餌料向けで国内外に食料資源を供給
- 漁船や漁具の製造・メンテナンス、燃油や氷の調達、水産物の流通等を通じて、幅広い関連産業と連携
- 1 船団が 100 名近く（乗組員とその家族）の生活を支え、特に離島地域の経済・定住に重要な存在
⇒「水産資源」と「地域の経済と雇用を支える漁業」を将来に繋げる使命



島根県の中型まき網漁業におけるウルメイワシの漁獲状況



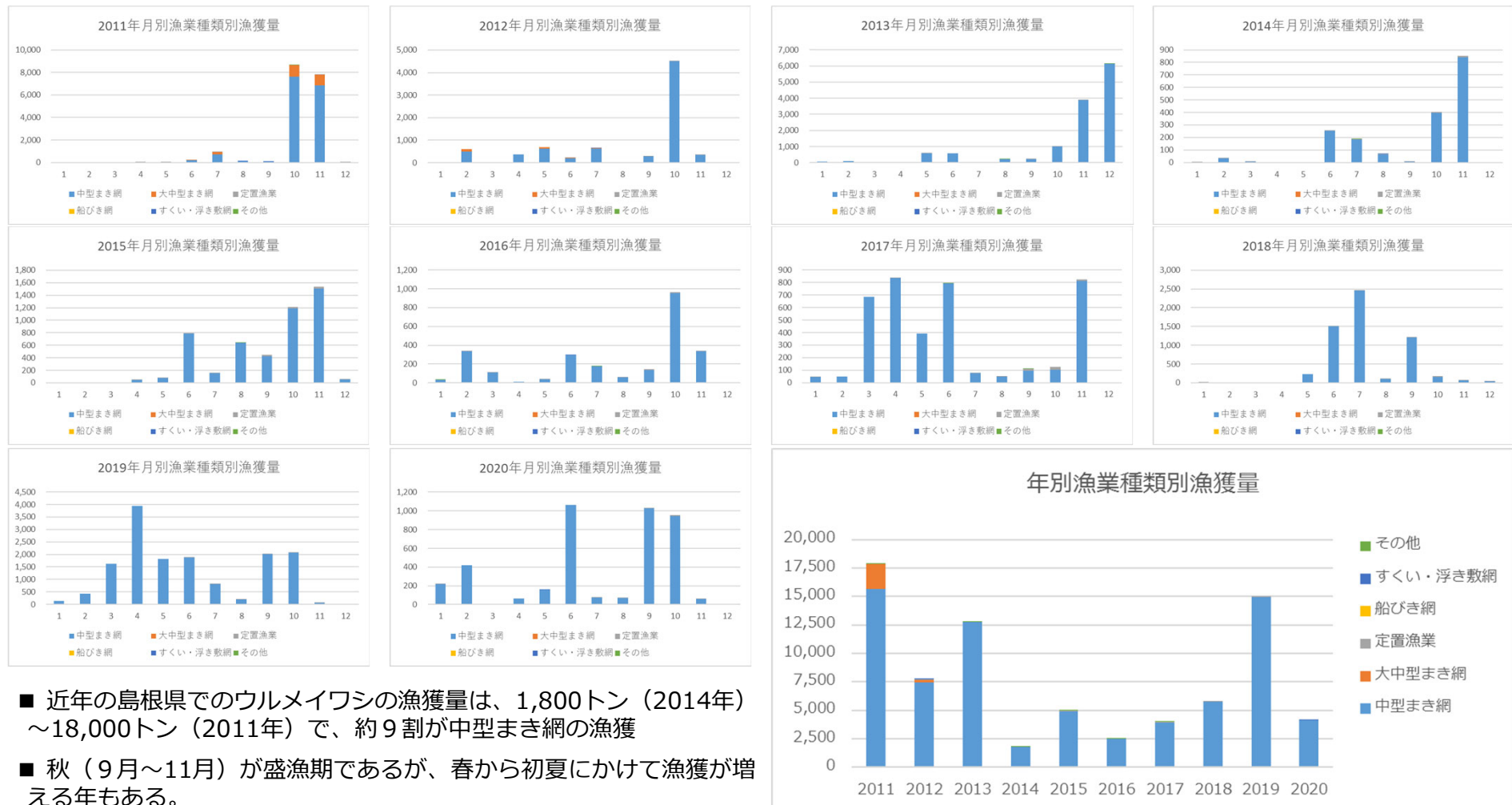
- ウルメイワシ（対馬暖流系群）の分布図
〔水産研究・教育機構資料から引用・一部改編〕
- 東シナ海から日本海側に広く分布する資源を島根県沖（図の緑色の箇所）で利用
⇒ その年、その時期に自県沖に来遊する資源に依存し、大きな漁場移動は困難



- 島根県の中型まき網漁業における魚種構成（漁獲量ベース）〔データ提供：島根県〕
- 島根県の中型まき網の漁獲のうち
マイワシ・マアジ・サバ類 が占める割合 **76%**
マイワシ・マアジ・サバ類・カタクチイワシ・ウルメイワシ が占める割合 **88%**
⇒ 他魚種の漁場形成を要因として年変動があるものの、カタクチイワシ、ウルメイワシの漁獲割合は低く、混獲での漁獲が中心

中型まき網漁業の現場から思う資源管理 ②

島根県でのウルメイワシの漁獲動向（2011年～2020年）〔データ提供：島根県〕



中型まき網漁業の現場から思う資源管理 ③

参考人としての意見

- 「新たな資源管理」を進めるにあたっては、関係する全ての漁業者の理解・納得・安心が必要不可欠であり、“説明”と“議論”を尽くす必要がある。そのためにも現場の漁業者の声を十分に聴いて欲しい。
- 水産庁、水研機構、都道府県においては、複雑な制度体系、外国の資源管理手法、他の魚種での柔軟な運用方法などを分かり易くタイムリーに説明し、漁業者が将来を前向きに考えられるような先見的な知恵を出して欲しい。
- 単に水産資源の増大だけを考えるのではなく、資源を漁獲する漁業、それを利用する関連産業が安定存続・発展する必要がある、漁業経営、陸上の処理能力等、資源を有効に利用することもセットで検討を進める必要がある。
- ウルメイワシは他の魚種に混ざって漁獲されることが多い魚種であり、漁獲量が資源量を反映しているわけではない（漁場形成があっても漁獲しない場合がある）。
 - ① 漁獲量情報以外のデータを集め、早急に資源評価の精度を向上させる必要がある。
 - ② 依存度の低い魚種の数量管理のためだけに、操業そのものにブレーキを欠けることになってはいけない。
- 資源評価の精度向上が必要であり、その途上で示された数字で漁業者の操業が厳格に制約を受けることの無いよう、緩やかで柔軟な管理手法（漁獲努力量管理や目安数量管理など）を検討して欲しい。
- 漁業現場に混乱を生じさせないためのアイデアを出せるよう、議論を継続し、議論を深化させ、漁業者を安心させて欲しい。